

令和2年度 第1回 地域包括支援センター運営協議会

(神林地区)

コロナ禍での業務について（自由記載）※運協委員に報告したいことなど

- 9月から新型コロナウイルス感染防止対策をとって「通いの場」を開催し、地域高齢者の心身の健康確保を図ることが極めて重要であることを感じた。

- 神林支所は転倒予防教室を希楽々に事業委託している。新型コロナウイルス感染症にて5～7月活動中止にあたり、「令和2年度 通いの場の活動自粛における介護予防のための後方支援事業」を活用し、「室内の運動」や「自宅周辺でのウォーキング」など、啓発と実態把握を兼ねて、声かけ訪問を実施した。
感染防止のためには「外出を控える」ことが有益と考えられているが、外出を控えることにより、身体活動の減少や要介護状態に陥りやすくなるという現状が明らかになった。家庭訪問でこのことを呼びかける必要がある。
また高齢者は「社会とのつながり」も極めて重要なことから、「抑うつ傾向」「要介護状態のリスクが高い」ケースを適切に地区担当保健師へつなぐという体制で事業を計画したので、スムーズにケースがつながり介護への移行を防止できた。

〇〇互近所ささえ～る隊活動報告について（自由記載）

- 新型コロナウイルス感染症にて5月、7月活動中止。
11月、2月開催予定。
 - ① 消防団とのワークショップ
 - ② 「ささえあいカタログVol.2」のさらなる充実③
 - ③ 神林ささえる日の検討